

事業ID: 2024005368

事業名: 海と日本PROJECT in 沖縄県(CFB・海と日本2024)

団体名: (一社)海と日本PROJECTin沖縄県

極秘

日本財団御中

海と日本PROJECT in沖縄県 (CFB海と日本2024) 実施報告書

一般社団法人 海と日本PROJECT in沖縄県

企画実施報告書

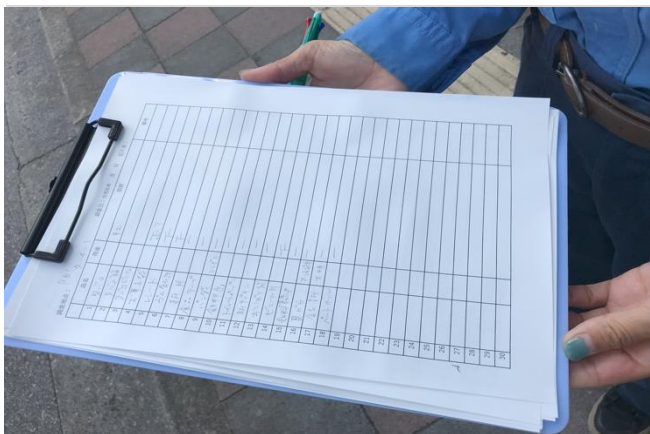
タイトル	国際通り・国場川ホットスポット調査事業
実施期間	2024年7月29日(月曜日)～2024年8月02日(金曜日)国際通り 2024年8月13日(火曜日)～2024年8月14日(水曜日)国場川流域
実施場所	国際通り・久茂地などに区分け(一部メインストリート裏手の路地も含む) 国場川流域、河口に近い部分をメインに、川を遡上した3地点でも目視調査
主催	一般社団法人 海と日本PROJECTin沖縄県
協力団体	日本エヌ・ユー・エス株式会社
企画概要	那覇市・国際通り周辺と周辺市街地を流れる国場川においてごみの種類や量を調査。 【国際通り】継続調査により実像に迫るとともに、変化の有無を見る。 【国場川流域】海へと続く河川の調査により、海洋ごみ流出の実態を把握。
企画詳細	<p>◇国際通り「昨年調査と同様にたばこ関連のごみが突出し多い結果に」</p> <p>今回の国際通り周辺の調査で確認できたごみの総数は8,576個、このうちたばこ関連が6,108個(71.2%)、飲食関連が1,215個(14.2%)となった。この2種がごみ全体の8割以上を占め、落ちているごみの種類が大きく偏った昨年調査と同様の結果となり、たばこ関連のごみや飲食関連のごみが突出して多いことが改めて浮き彫りとなった。「たばこ関連のごみ」に限ってエリア別でみると、「国際通り」エリア内で確認されたごみのうち、たばこ関連のごみが占める割合は約76%と最も高く、次いで「屋台村」エリアが70%程度となった。このほかエリアによって比率に差が出たものの、全エリアでたばこ関連のごみが60%以上となり、ごみの種類として最も多く確認された。また「飲食関連のごみ」が占める割合は、「久茂地」で18%程度、「県庁前」エリアで17%程度となるなど、全エリアにおいて、「たばこ関連のごみ」に次いで多く確認された。</p> <p>◇国際通り「たばこ関連のごみへの対策が急務」</p> <p>先述の結果を受け、弊社では国際通り周辺の喫緊のごみ問題は「たばこ関連のごみ対策」と捉え、たばこ関連のごみ減少を目指した対策を今年度内に実施する予定。</p> <p>◇国場川流域「飲食関連のごみなど生活系のごみが多く、次いでプラ・ビニール片などに」</p> <p>今回の国場川流域の調査では、河口に近い部分をメインに、川を遡上した3地点でも目視調査を実施。意図としては住宅地や市街地を経る中で、確認されるごみの量や内容に違いがでるかを見るためだったが、今回の調査を実施した国場川、饒波川、長堂川では、ほぼ全域にわたって護岸が整備されており、ごみの蓄積はあまりみられなかった。一方で河口に近い漫湖公園エリアでは多くの滞留ごみを確認。このエリアで確認されたごみの総数は1,956個、このうち飲食関連が938個(48%)、次いでプラ片・ビニール片が317個(16.2%)、たばこ関連が276個(14.1%)となり、この3種類で全体の8割近くを占める結果となった。</p> <p>◇国場川流域「海へと続く河口付近にごみが滞留」</p> <p>場所の性質上、単純な比較はしづらいところだが、国際通りの落下ごみと比べると河川でのごみ調査では飲食関連やプラ片・ビニール片などの生活に関わるごみの割合が高い結果となった。加えてペットボトルについては、ラベルが剥がされたものが多く含まれていて、市街地にある家庭ごみの集積場などからカラスが突いて漏れ出たとされる、いわゆる「漏洩系」のごみも含まれていることが確認。このことは海から離れた住宅地のごみが海洋ごみにもなり得る証左となっており、海洋ごみゼロを達成するためには、生活・家庭ごみをきちんと処理に回すように意識することを広く周知させる必要があるだろう。弊社では、本調査結果を踏まえた対策の実施を検討している。</p>



国際通り調査①



国際通り調査②



国際通り調査③



国場川流域の調査①



国場川流域の調査②



国場川流域の調査③

企画実施報告書

タイトル	ボランティア専用ごみ箱「拾い箱」施策
実施期間	2025年1月20日（月曜日）～2025年3月19日（水曜日）
実施場所	奥武山公園・運動公園
主催	一般社団法人 海と日本PROJECTin沖縄県
協力団体	コーディ・プロ、株式会社公衆衛生
企画概要	<p>一般社団法人 海と日本PROJECTin沖縄県は、海洋ごみを中心に県内の廃棄物対策に取り組んでいる日本エヌ・ユー・エス株式会社とともに2024年8月に沖縄県那覇市とその周辺市町を流れる国場川流域にてごみの種類や量を調査する事業を実施。この調査を受け、生活ごみが多くを占めていることがわかったため、国場川の河口域に「いつでもごみ拾いができる“拾い箱”」を設置。</p> <p>【イベント】2025年1月30日（木）、2025年2月6日（木）の2日間実施 約150組が参加（中学生・高校生）</p>
企画詳細	<p>◇国場川流域「飲食関連のごみなど生活系のごみが多く、次いでプラ・ビニール片などに」</p> <p>今回の国場川流域の調査では、河口に近い部分をメインに、川を遡上した3地点でも目視調査を実施。意図としては住宅地や市街地を経る中で、確認されるごみの量や内容に違いがあるかを見るためだったが、今回の調査を実施した国場川、饒波川、長堂川では、ほぼ全域にわたって護岸が整備されており、ごみの蓄積はあまりみられなかった。一方で、河口に近い漫湖公園付近のエリアでは多くの滞留ごみを確認。このエリアで確認されたごみの総数は1,956個、このうち飲食関連が938個（48%）、次いでプラ片・ビニール片が317個（16.2%）、たばこ関連が276個（14.1%）となり、この3種類で全体の8割近くを占める結果となった。</p> <p>◇対策は急務！「いつでもごみ拾いができる“拾い箱”」で周知を図る</p> <p>場所の性質上、単純な比較はしづらいところですが、本調査に並行して実施した国際通りの落下ごみと比べると河川でのごみ調査では飲食関連やプラ片・ビニール片などの生活に関わるごみの割合が高い結果となった。加えてペットボトルについては、ラベルが剥がされたものが多く含まれており、市街地にある家庭ごみの集積場などからガラスが突いて漏れ出たなどとされる、いわゆる「漏洩系」のごみも含まれていることが推察される。</p> <p>このことは海から離れた住宅地のごみが海洋ごみにもなり得る証左となっており、海ごみゼロを達成するための方法の1つとして、生活・家庭ごみをきちんと処理に回すように意識することを広く周知させる必要があるというところで弊社では、本調査結果を踏まえた対策として、河口付近にある奥武山総合運動公園内に「いつでもごみ拾いができる“拾い箱”」を設置した。拾い箱には調査結果の概要を記載しており、参加者や通行した人に対しての周知・啓蒙につながる事が期待されている。</p>



設置箱



啓発メッセージ



設置箱側面パネル




設置箱アップ



設置箱アップ②



中の様子

参加した子ども・保護者からの声	<ul style="list-style-type: none">・人が食べた後のごみ(タバコやお菓子の殻)が多かった・柵の外や茂みなど自分たちもあんまり見えていなかったところにごみが多くてこれが現状なのかと思いながら拾った・思ったよりもガラスや電池が多くてこういうものを生き物が食べたら危ないと思うし人間が触っても危ないのにそういうものがいっぱいあつて大変だと思った・沖縄は海が魅力なのに川にごみが多いと感じるきっかけになった
配布物	<ul style="list-style-type: none">・看板デザイン 

自社媒体露出

・「海DO宝」 放送日 : 2025年3月19日



企画実施報告書

タイトル	たばこ関連ごみ問題啓発事業
実施期間	2025年2月21日(金曜日)～2025年3月21日(金曜日)
実施場所	那覇市・パレットくもじ前広場(タクシーロータリー付近)
主催	一般社団法人 海と日本プロジェクトin沖縄県
協力団体	【運営協力】久茂地都市開発(実施場所調整) 宗建リノベーション(喫煙所レンタル) 日本たばこ産業沖縄支社(運営についての助言) RBCビジョン(常駐スタッフの手配・管理) 【事前調整】那覇市役所各課・那覇市消防局
企画概要	国際通り付近での”たばこ関連ごみ”の減少を目指し、喫煙者に直接訴えかける場として「簡易喫煙所」を設置する
企画詳細	◇喫煙所設置箇所 那覇市・パレットくもじ前広場(タクシーロータリー付近) 国際通りの入口にあたり、バス・モノレールなど公共交通機関都の導線となっている ◇簡易喫煙所 ・トレーラーハウス ※参考写真 強風対策として重り(トンブロック)を設置 「パレットくもじ」より電源引き込み 照明、コンセント4口付属 ・分煙機 ダスキンより購入 ※参考 ・扇風機 喫煙所内に風に流れをつくるため ◇副流煙対策 ・厚生労働省の留意点等を踏まえて運営 ・留意点よりも踏み込んだ形での対策として分煙機を設置 ・那覇市健康増進課にも対策相談等実施



トレーラーハウス



トレーラーハウス正面



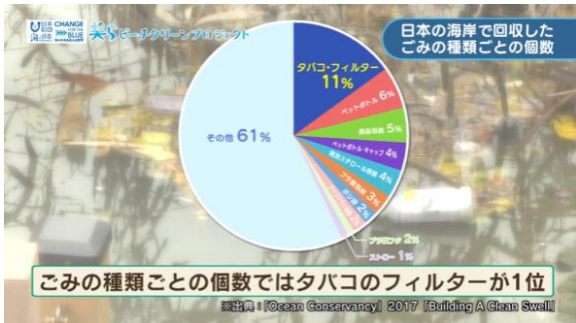
トレーラーハウス内部①



トレーラーハウス内部②

自社媒体露出

・「海DO宝」 放送日 : 2024年3月19日



企画実施報告書

タイトル	街マナティ×高校生連携事業
実施期間	2025年2月28日(金曜日)
実施場所	沖縄県那覇市県庁前～国際通り
参加人数	160人(高校生・一般人)
主催	一般社団法人 海と日本PROJECTin沖縄県
協力団体	プロジェクトマナティ、県内高等学校、県教育庁、那覇市等
企画概要	清掃活動「街マナティ(街ごみ拾い)」とCFB・高校生が連携し、高校生がデザインしたオリジナルバッグを実際に使用、高校生自身がごみ問題を自分事として捉え、より身近な活動としてもらう。
企画詳細	<p>▽高校生連携の仕掛け</p> <p>一般社団法人海と日本PROJECTin沖縄県は『街のごみ』を拾って『海ごみ』を減らす活動をしている『街マナティ』と協力連携し、次世代を担う高校生が『街マナティ』の道具で行ったごみ拾い経験を元に、より使用しやすい、携帯しやすいごみ拾いオリジナルバッグをデザイン。同年代の高校生におしゃれなごみ拾いを浸透させるべくそのお披露目と実際にごみ拾いを実施した。</p> <p>▽高校生連携とオリジナルごみ拾いバッグが出来るまで</p> <ul style="list-style-type: none">・『街マナティ』 街ごみを拾って海洋ごみを減らす活動毎月最終金曜日午後4時から午後7時まで沖縄県庁前広場から国際通り全域を清掃する活動。・沖縄尚学高等学校の生徒に参加してもらい、既存のごみ拾いバッグの使い勝手を体験、使用感を確認し、『高校生が高校生に使ってもらうためにどうすればよいか?』を元に利便性や必要性、デザインや大きさなどを研究検討。活動元の(一社)マナティから講師を招き、海プロ事務局も一緒に意見を交換、ごみ拾いに特化したオリジナルごみ拾いバッグを、高校生の視点で一緒にデザインを作成し、海プロ事務局が製品化した。 <p>7/19(金)一回目 街マナティのごみ拾いバッグを使用し国際通り清掃活動。実際のごみ拾いを行い、現状のごみ拾いバッグの使用に関する感想や使い勝手などの意見出しを行った。</p> <p>8/23(金)二回目 一回目の考察を元に『高校生が参加しやすくなるような仕様と、常に持ち歩きたくなるようなデザインをさらに考察』</p> <p>2/28(金)三回目 先に実施し集約した意見やアイデアを盛り込んだ『オリジナルごみ拾いバッグ』制作し、2月の街マナティでお披露目および実際に使用。高校生が自分事化してごみ拾いをいつもの生活に落とし込む一助となった。</p>



事前説明会



オリジナルバックお披露目



1回目の高校生連携活動



ごみ拾い活動(マナティバッグを使用)



2回目の高校生連携活動



3回目高校生連携活動

参加した子ども・保護者からの声	<p>◇参加者の声</p> <p>オリジナルバッグについて</p> <ul style="list-style-type: none">・小さい分、持ち運びが軽くて動きやすくなったのと、水を入れられるところがあるのが良かった・前回より形がしっかりしているのと、小さくなっていて、ごみが入れやすくなっていた・使いやすいけど大きいごみが飛び出たのがちょっとやりにくかった
配布物	<p>・オリジナルバッグ 計50点</p> <div><p>＜サイズ・仕様＞ タテ400mm×幅320mm×奥行130mm トートバッグでサイドポケット付き</p><p>＜色＞ 緑</p><p>＜使用ロゴ＞ ①メインロゴ(マルロゴ) 表一か所、手提げた時に正面になる面。 (タテ400mm×幅320mm) ②CFBロゴ(長方形)＋ 美らビーチクリーンロゴ(正方形) 水筒のように横に繋いで 横ポケットに下方に収まるサイズで メインロゴを正面にした場合の 左側サイドポケット下部 (タテ400mm×幅130mm)</p><p>＜配置＞ 右手で手提げた際、正面に 大きなマルロゴ配置。 マルロゴの左側サイド (持った時の後方)に 長方形ロゴ配置。</p></div> <div><p>商品サイズ</p><p>サイドポケットは瓶などの入るサイズ</p></div>

自社媒体露出

・「海DO宝」 放送日：2025年3月26日



企画実施報告書

タイトル	海洋ごみ教育推進モデル(海洋ごみ出前授業)
実施期間	2024年10月3日(木)～2024年12月10日(火)
実施場所	小学校8校 宜野湾市・大謝名小学校 5年生98人 南城市・知念小学校 6年生38人 糸満市・糸満南小学校 4年生127人 八重瀬町・新城小学校 5年生62人 浦添市・仲西小学校 4年生82名 沖縄市・安慶田小学校 4年生68人 西原町・西原南小学校 5年生57人 名護市・安和小学校 4・5・6年生45人
参加人数	577人(小学生577名)
主催	一般社団法人 海と日本プロジェクトin沖縄県事務局
協力団体(講師)	鹿谷麻タさん／しかたに自然案内代表
企画概要	授業を通じて小学生高学年から海に対する「意識変容を促す」「海を大事に思う考え」を醸成すること目的とする。
企画詳細	<p>▽授業内容</p> <p>【導入】ショートVTRで海ごみ問題を提起</p> <p>【体験】海岸で拾えるものをみてみよう。教室の床に実際に拾ってきたものを広げ、暮らしや漁業に関連したごみを手に取りながら「海ごみ問題」を考える</p> <p>【考え】「海ごみ問題」を楽しく学べるパネルクイズ15問を実施</p> <p>【理解】クイズの解答&解説 写真や図を用いて学びを深める</p> <p>【配布】事後での「復習」用にクイズで使用したパネルを小冊子にまとめ配布</p> <p>▽派生相乗効果</p> <p>昨年度授業を申込した学校から今年度も申込があり、今回は当該授業を受けるだけではなく、学校独自の学習体験カリキュラムとして「海洋ごみ出前授業」と連動したフィールドワークを実施。座学からの実体験活動で児童のごみ問題への意識変容の定着を図る好事例が発生。(⇒授業前後で学校近所の海岸でビーチクリーン・海浜清掃活動、拾ったごみの詳細分析、それを学級発表するなど、出前授業の座学をリアルに体感し自分事に出来ている)。このように出前授業を継続開催することで、学校側と先生の意識も変わり、行動変容を起こし、その結果、児童へ還元されるシナジー効果が生まれている。継続することで生まれた結果であり、2025年度も実施するに値する事業と言える。</p>

企画実施報告書

企画詳細	<p>▽効果測定としてアンケート実施 以下設問で5点満点</p> <p>【2023年度 ⇒ 2024年度】</p> <p>1 授業はとてもおもしろかった……4.1点 ⇒ 4.5点</p> <p>2 知らないことがたくさんあった……4.2点 ⇒ 4.4点</p> <p>3 自分の考えがすごく変わった……4.0点 ⇒ 4.0点</p> <p>4 これからの暮らしにとっても役立つ…4.5点 ⇒ 4.5点</p> <p>5 おうちの人にぜひ話したい……4.1点 ⇒ 4.3点</p> <p>6 自分の行動を変えようと思う……4.4点 ⇒ 4.4点</p> <p>7 海をもっと大事にしようと思う……5.0点 ⇒ 4.8点</p> <p>▽評点から読み取れること</p> <p>各設問とも「平均が4 以上」となり、全体としての評点は高い傾向にある。前年との比較を行うと、設問1、2、5で前年を越えて高く、学校で習わない学習内容に満足していること、そしてその知識を家族に波及している傾向が見られる。これは授業を通じて「意識の変化を促す」ことを目的の一つにしているため目的を達成できているといえる。また、設問5の評点があがっており昨年課題とし「学んだことの波及率」をあげることも概ね達成できたと考える。</p> <p>しかし、設問3の低い傾向は昨年に引き続き残っており、設問2や5で、知らないことを知り、他の人には伝える行動が上昇しているにも関わらず停滞していることは、児童が元々「海ごみについて問題意識をもっていた」場合、この設問では「変わらない」を選択する可能性があることが想定されるため、次回のアンケートでは、この設問内容を調整していく必要があると考えられる。</p>
------	--



宜野湾市立大謝名小学校



南城市立知念小学校



糸満市立糸満南小学校



八重瀬町立新城小学校



浦添市立仲西小学校



沖縄市立安慶田小学校

<p>参加した子ども・保護者からの声</p>	<p>【参加した子どもの感想】</p> <ul style="list-style-type: none">・自分たちが出しているごみで海の生きものが苦しんでいることを知った・生活で出るごみ(特に食事のつつみ)が海にたくさんあることがわかった・鳥のおなかにパンパンにごみが入っているのを知った・意味のない漁具に魚が何匹も掛かっていると思うとゾッとした・不織布マスクはごみじゃないから水に溶けないことを知った・外国のお菓子の袋やペットボトルが流れてきていると初めてしった・洗濯機であらった服からもマイクロプラスチックが流出していると知った・キャップがないペットボトルはそのまま沈むとは知らなかった・ごみが多いことはわかったけど漁業のごみも多いことがわかった・太平洋ゴミベルト、想像するだけでとても汚いと思った・道端のポイ捨てゴミが最後に海にたどり着くことを知ってびっくりした
<p>配布物</p>	<div><div>①ワークシート申込人数分</div></div> <div><div>②副読本申込人数分+各学校寄贈分</div></div>
<p>自社媒体露出</p>	
<p>・「海DO宝」 放送日:2024年12月4日</p> <div><p>2024年度 海洋ごみ問題啓発出前授業</p></div> <div><p>暮らしの見直しに少しでもつながればいいのかな</p></div> <div><p>バーコードの最初の2〜3ケタ(の数字)はそのボトルを作った国を表わしています</p></div> <div><p>減らそう海ごみクイズ</p></div>	

企画実施報告書

タイトル	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会
実施期間	2024年8月24日(土曜日)
実施場所	中城村 中城裏ビーチ
参加人数	72人(高校生72名・1チーム3名×24チーム)
主催	一般社団法人 海と日本PROJECT in沖縄県 一般社団法人ソーシャルスポーツファウンデーション
協力団体	日本財団 海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE
企画概要	2024年12月1日に東京で開催予定の全国大会に向けて、沖縄県代表を決める予選大会。
企画詳細	<p>記録的な猛暑が続く中、24チームが参加してくれた沖縄県大会。開会式のチーム点呼から各チーム独自の返事で盛り上がり、はしゃぐ姿に皆さん楽しみにして参加してくれたことが伝わってきた。司会を務めてくれた沖縄のお笑い芸人「凸凹トラベリング」。あっという間に綺麗になっていく海岸。結果、チーム「SMA」は燃えるごみ、吸殻で1位、ビン・缶で2位を獲得し、ごみ総量8.24kg／1109ポイントを獲得し、準優勝チームに20ポイント差をつけて優勝！</p> <p>12月に東京で行われる全国大会でも好成績が期待される。オリジナルアイテム賞は農林高校らしく可愛く花でデコレーションし、分別しやすいようにデザインされたアイテムを作ってくれた「農林生トリオ」が受賞。当日の天気は曇時々雨。雷注意報が発令され、雨が降る事を危惧して競技時間を40分に設定して行われた。そんな中参加者は総量約59kgものごみを集め、ごみの海への流出を食い止めることができた。今回の沖縄県大会で集められたごみの総量は約59kg。青い海と広い砂浜が特徴の中城モール裏ビーチ。マーメイドの石像がシンボルとして有名なこのビーチも台風接近での漂着ごみ、訪れた人が出す生活ごみでいっぱいだった。海に囲まれた沖縄県民は「海は県民の財産」と考えている人も多く、子どものころから海の大切さを学んでいる。そんな環境でも砂浜はもちろん、海岸に面する木々の間などに飲み食いしたような跡などがあった。スポGOMI甲子園に参加した皆さんはきっと本日の様子を周りに伝え、自分ができるアクションを起こしてくれるはずだ。沢山の人が訪れるこの中城モール裏ビーチからその輪が広まっていくことを実感したイベントとなった。</p>



集合写真



スタート時の様子



競技時の様子①




競技時の様子②



参加者①



参加者②

<p>参加した子ども・保護者からの声</p>	<p>【優勝チームコメント】 「見えにくいところにあったごみのかたまりを草の奥から見つけたことが勝因。」 「海から流れてくるゴミよりも人が出したゴミが多いように感じた。」 「まとめられているのになぜごみ箱に捨てないんだろうと不思議に思ったごみがあった。」 砂浜でバーベキューをしてそのごみを置いて行ったものを見つけたことがショックだったそうです。全国大会では海を大事に思う沖縄県の代表として優勝を目指すとした力強く語ってくれた。</p>
<p>配布物</p>	<p>・大会用チラシ</p> 

自社媒体露出

・番組露出【テレビ】

「海DO宝」 放送日:2024年10月16日



・パブリシティ【ラジオ】

「わんDAY」

「アップ!!」

「Bランチ！」

「具志堅ストアー」

「MUSIC SHOWER PLUS+」

「ナガハマヒロキの週間リッスン」

「具志堅ストアー」

放送日:2024年7月17日

放送日:2024年7月19日

放送日:2024年7月20日

放送日:2024年7月22日

放送日:2024年7月24日

放送日:2024年7月27日

放送日:2024年7月30日

・募集告知

【テレビ】放送期間:2024年7月12日～8月15日

放送本数:1本 放送回数:60回

【ラジオ】放送期間:2024年7月14日～8月15日

放送本数:1本 放送回数:60回



他媒体露出

・沖縄タイムス

掲載日:2024年9月5日朝刊



・沖縄タイムスWEB版 掲載日：2024年9月5日

【中略】全国の高校生がごめいを競い合う「スズバゴム1甲子園」（主催・東海実行委員会、日本財団）の県大会が8月24日、中城村久島の中城モール裏の海岸で開かれた。県内の高校生24チームが参加。3人で1チームを組み、制限時間40分で行ったごめいの質や量をポイントで競った。全チーム優勝して試合終了。87年が初めて。8・24年を記念した内閣府2年生のチーム「S・M・A」が優勝した。12月1日に東京都内で開かれる全国大会に出場する。（中略報道・吉川晴）



優勝した向陽館2年生のチーム「B・M・A」。左から花城さくらさん、朝日夢衣さん、土間侑利さん。2月24日、中越村久木の森でチーム写真を撮る。

時折雨が降る中、各チームは「未来の海のために今できることを」の思いを込めた「チェンジ・ブルー」のかげ声とともに一斉にビーチに降り出し、ごみを集め始めた。ごみは、量量だけでなく、燃えるごみや燃えないごみ、缶、ビン、ペットボトル、たばこの殻いなどに分けられ、種類によってボックスが細かく分けられて集計された。

優勝した「S・M・A」は花城くまさん（15）、根城孝史（めい）さん（16）、上間侑莉（あかり）さん（17）のそれぞれの漢文字からチーム名を付けた。チームは、華むらにまともて磨てられていたことを見つけ、分別してバリエーション豊かな優勝チームに取った。根城さんは「ビーチパーティーで磨てられたと思うが、焼き肉のたれの瓶にはたれが入ったまま磨てられていた」と驚いた。上間さんは「たばこの匂いもたれもたれも、なぜか磨てくるのが不思議で面白い」と感動を語った。

リーダーの花城さんは「まさか優勝できると思わなかった。全国でも優勝できるように頑張りたい」と意気込みを語った。

その他の結果は次の通り

2位 = 「下へみみく」 (奈良原画、豊見城画) ♪3位 = 「ぐしかわ」 (具志川画) ♪アイテム賞 = 「森林ストロ」 (京都森林高)

〔写真説明〕優勝した山陽高2年生のチーム「S・M・A」。左から花城さくらさん、藤原孝衣さん、上

〔客観評価〕「エポGOM」用子国、の場大会に参加した高校生ら

수업시간, 수업결과, 수업후

2024年9月5日 4:08

企画実施報告書

タイトル	スポGOMI ワールドカップ 2025 沖縄STAGE
実施期間	2025年1月18日(土曜日)
実施場所	中城村当真 吉の浦公園ビーチ
参加人数	120人(計40チーム×3人)
主催	一般社団法人 海と日本PROJECT in 沖縄県 一般社団法人 ソーシャルスポーツイニシアチブ
企画概要	2025年9月に東京で開催予定の日本STAGEに向けて、 沖縄県代表を決める予選大会。
企画詳細	<p>今回会場となった吉の浦公園ビーチはサッカーチームのキャンプ地にも選ばれ、ビーチのごみは少ないと運営は予想していた。そこでビーチに隣接する遊歩道や茂みも範囲に加えてルールに入れ込むことで、海辺の海洋ごみに加えて長年回収されなかった大量の燃えないごみやビンを拾うことができ、その総量なんと482.91kgにもなった。上位チームは拾いすぎて一度に運べず、制限時間ギリギリまでごみの運搬に費やし疲労困憊の様子だった。</p> <p>今回参加してくれたのは総勢40チーム120人。高校生チーム、企業チーム、家族チームとバラエティ豊かだが、その中でも普段からごみ拾いをしているボランティア団体の活躍が目立った。燃えないごみや大量のビンを茂みの中から見つけ、効率的に連携を取りながら回収してポイントに繋げたのも経験値からくる対応だったと思う。中でも優勝チームのハイクリ@マスターチーターはポイントの高いビンの回収を最優先にし、重量では2位の「パトラン／風林火山」に劣るものの、ポイントで上回り優勝するという作戦勝ちだった。</p> <p>常夏のイメージがある沖縄も1月は風が強く体感寒く感じる。スポGOMI当日はこの時期に珍しく雲が少ない快晴で、日差しは暖かく絶好のごみ拾い日和だった。気持ちの良い天気の中、ビーチのごみだけでなく普段は踏み入らない場所のごみも回収でき、日ごろからごみ問題に関心のある参加者は充実の表情だった。この大量のごみを前に、改めて海に囲まれた沖縄県民として何ができるのかを考えさせられた大会となった。</p>



集合写真



スタート時の様子



競技時の様子




集めたごみの種類



優勝チーム(ハイクリ@マスターチーター)



ごみ総量482.91キロ

参加した子ども・保護者からの声	<p>【優勝チームコメント】</p> <p>「2連覇うれしい!!!」</p> <p>「まさかの1位！びっくりで嬉しい。結果発表がめちゃくちゃドキドキしました。」</p> <p>「大量のビンを発見して、子どもに「とにかく集めて！」と指示しました。重すぎて運べなくて作戦失敗かと思いましたが結果よかったです。この3人で東京でもいっぱい拾います。」</p>
配布物	<p>・大会用チラシ</p> 

自社媒体露出	
<p>・番組露出</p> <p>【テレビ】「海DO宝」 放送日 : 2024年2月12日</p> 	<p>・募集告知</p> <p>【テレビ】放送期間 : 2024年12月1日～2025年1月8日 放送本数 : 1本 放送回数 : 40回</p> <p>【ラジオ】放送期間 : 2024年12月1日～2025年1月8日 放送本数 : 1本 放送回数 : 40回</p> 
<p>・パブリシティ【ラジオ】</p> <p>「ナガハマヒロキの週刊リッスン」</p> <p>「沖野綾亜のチルドキ!!」</p> <p>「アップ!!」</p> <p>「MUSIC SHOWER PLUS+」</p> <p>「具志堅ストアー」</p>	<p>放送日 : 2025年1月4日</p> <p>放送日 : 2025年1月5日</p> <p>放送日 : 2025年1月6日</p> <p>放送日 : 2025年1月7日</p> <p>放送日 : 2025年1月8日</p> <p>スポGOMIワールドカップ2025 ラジオ読PB原稿</p> <p>ここで海と日本プロジェクトから「スポGOMIワールドカップ 参加者募集」についてお知らせです。</p> <p>「スポGOMIワールドカップ 沖縄STAGE (オキナワステージ)」</p> <p>1月18日(土) 中城村・「吉の浦公園ビーチ」で開催決定！</p> <p>参加者 総数募集中です！</p> <p>メンバーは性別・年齢、問いません！ご家族で、お友達で、会社の同僚で、3人一組のチームでご応募ください。</p> <p>見えるゴミやタバコ、ペットボトルなど、拾ったゴミの量をポイント化して判定いたします。</p> <p>楽しくゴミ拾いをして、優勝チームは夏に行われる東京大会へご招待。</p> <p>そこでも優勝すると世界大会へご招待！世界中から集まったゴミ拾いの強者たちと競い合います！</p> <p>「スポGOMIワールドカップ 沖縄STAGE」</p> <p>参加申し込みについて</p> <p>詳しくは、RBCホームページをご確認するか、「スポGOMIワールドカップ オキナワ」で検索してください。</p> <p>締切は1/8水曜日です。</p> <p>以上、海と日本プロジェクトから「スポGOMIワールドカップ 沖縄STAGE 参加者募集」のお知らせでした。</p>

清掃活動実施報告書

合計開催場所数	16ヶ所
合計開催回数	16回
合計参加人数	1335人
合計回収数	ごみ袋:807枚(可燃485枚／不燃322枚)
実施報告	<p>今年度もRBCiラジオの「RBCビーチクリーンクラブ」と連携。 RBCiラジオの番組パーソナリティを中心に、毎回清掃活動の番組内での告知、呼びかけ、当日の司会進行、清掃活動への参加等、精力的に活動へ参加してもらい、沖縄県内外の番組リスナーを中心に参加者数を積み上げることができた。</p> <p>またRBCビーチクリーンクラブとして主体的に連携先を募り、金武町の行政を巻き込んで清掃活動を行ったり、県内の飲料系企業とタイアップして企業の社員に参加してもらうだけでなく、参加賞として飲料を提供をいただき、参加者へ還元するなどより工夫して取り組むことができた。さらにRBCiラジオの出張公開放送と組み合わせで清掃活動⇒放送という流れを作り、放送を楽しみに来る来場者を巻き込んで開催した。</p>

No.	参加団体名	実施期間	実施場所	参加人数
1	RBCビーチクリーンクラブ	9/21	糸満市潮崎ビーチ	24
2	RBCビーチクリーンクラブ	9/22	はての浜(久米島)	35
3	街マナティ	9/27	那覇市国際通り	65
4	RBCビーチクリーンクラブ	5/18	南城市佐敷(天の浜)	40
5	RBCビーチクリーンクラブ	7/13	渡慶頭海岸(金武町)	103
6	街マナティ	6/28	那覇市国際通り	39
7	街マナティ	7/19	那覇市国際通り	55
8	街マナティ	8/23	那覇市国際通り	62
9	スポGOMI甲子園 沖縄県大会	8/24	中城村 中城モール裏ビーチ	72
10	スポGOMIワールドカップ沖縄STAGE	1/18	中城村・吉の浦ビーチ	120
11	拾い箱 お披露目清掃活動①	1/30	奥武山公園・国場川付近	80
12	拾い箱 お披露目清掃活動①	2/6	奥武山公園・国場川付近	70
13	街マナティ×高校生連携	2/28	那覇市・国際通り	160
14	RBCビーチクリーンクラブ	3/2	大浦ビーチ(名護市大浦)	105
15	スポGOMIワールドカップエキシビション マッチ	3/23	中城村・吉の浦ビーチ	235
16	アバサンシン・ドラビットと国際通りでゴミ 拾い大作戦	3/29	那覇市国際通り	70

事業ID:2024005368

事業名:海と日本PROJECT in 沖縄県(CFB・海と日本2024)

団体名:(一社)海と日本PROJECTin沖縄県

極秘



金武町



糸満潮崎ビーチ(秋の海ごみ)



大崎ビーチ(集合写真)



大崎ビーチ(収集したごみ)



大崎ビーチ(説明会)



大崎ビーチ(出発式)

メディア露出報告書

自社での合計制作本数	10本(テレビ番組10本)
自社での合計放送回数	10回(テレビ番組10回)

No.	放送日	曜日	放送種別	番組名	放送内容	放送回数
1	24/05/29	水	テレビ	海DO宝	RBCビーチクリーンクラブ	1
2	24/06/05	水	テレビ	海DO宝	春の海ごみゼロウィーク	1
3	24/10/16	水	テレビ	海DO宝	スポGOMI甲子園	1
4	24/10/23	水	テレビ	海DO宝	秋の海ごみゼロウィーク	1
5	24/12/04	水	テレビ	海DO宝	出前授業 海洋ごみ教育	1
6	24/12/25	水	テレビ	海DO宝	スポGOMI甲子園全国大会	1
7	25/02/12	水	テレビ	海DO宝	スポGOMIワールドカップ全日本予選大会	1
8	25/02/26	水	テレビ	海DO宝	拾い箱	1
9	25/03/19	水	テレビ	海DO宝	喫煙所設置	1
10	25/03/26	水	テレビ	海DO宝	街マナティ	1

メディア露出報告書

自社での合計制作本数	12本(ラジオ番組12本)
自社での合計放送回数	12回(ラジオ番組12回)

No.	放送日	曜日	放送種別	番組名	放送内容	放送回数
1	24/07/17	水	ラジオ (パブリシティ)	わんDAY	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	1
2	24/07/19	金	ラジオ (パブリシティ)	アップ!!	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	1
3	24/07/20	土	ラジオ (パブリシティ)	Bランチ!	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	1
4	24/07/22	月	ラジオ (パブリシティ)	具志堅ストアー	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	1
5	24/07/24	水	ラジオ (パブリシティ)	MUSIC SHOWER PLUS+	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	1
6	24/07/27	土	ラジオ (パブリシティ)	ナガハマヒロキの週間リッスン	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	1
7	24/07/30	火	ラジオ (パブリシティ)	具志堅ストアー	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	1
8	25/01/04	土	ラジオ (パブリシティ)	ナガハマヒロキの週刊リッスン	スポGOMI ワールドカップ 2025 沖縄STAGE	1
9	25/01/05	日	ラジオ (パブリシティ)	沖野綾亜のチルドキ!!	スポGOMI ワールドカップ 2025 沖縄STAGE	1
10	25/01/06	月	ラジオ (パブリシティ)	アップ!!	スポGOMI ワールドカップ 2025 沖縄STAGE	1
11	25/01/07	火	ラジオ (パブリシティ)	MUSIC SHOWER PLUS+	スポGOMI ワールドカップ 2025 沖縄STAGE	1
12	25/01/08	水	ラジオ (パブリシティ)	具志堅ストアー	スポGOMI ワールドカップ 2025 沖縄STAGE	1

メディア露出報告書

自社での合計制作本数	3本(CM3本)
自社での合計放送回数	220回(CM220回)

No.	放送日	曜日	放送種別	番組名	放送内容	放送回数
8	24/07/12 ～8/15	-	テレビ (CM)	-	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	60
9	24/07/14 ～8/15	-	ラジオ (CM)	-	スポGOMI甲子園2024・沖縄県大会	60
10	24/12/01 ～01/08	-	テレビ (CM)	-	スポGOMI ワールドカップ 2025 沖縄STAGE	40
11	24/12/01 ～01/08	-	ラジオ (CM)	-	スポGOMI ワールドカップ 2025 沖縄STAGE	40
5	25/03/14 ～03/20	-	テレビ (CM)	-	CFB・たばこごみ啓蒙スポット	20